
QA53 県民健康調査「甲状腺検査」が「過剰である」と指摘する専門家がいると聞きました。本当に過剰なのですか

過剰であるかないかという評価は、現時点ではできないと考えています。現在の検査方法によるメリットとデメリットをしっかりと把握し、少しでもデメリットを少なくするようにしてまいります。

県民健康調査「甲状腺検査」では非常に精緻な検査を行っています。なぜなら

- ・当初、被ばく線量が推計されておらず、福島の子どもとその保護者の方の不安は非常に大きかったこと。
- ・長期にわたって検査を繰り返すため、できるだけ正確に甲状腺の状態を把握し、見比べる必要があったこと。
- ・子どもを対象としたこれだけ大規模な甲状腺の超音波検査は世界でも初めてだったこと。
- ・そのため、検査の標準化を図り、対象者を将来にわたり同一診断基準で包括的に見守る必要があったこと。

などの理由があったためです。そして一次検査で、精密な検査(二次検査)が必要な方を少しでも見落とさないように、という前提がございました。

ただし、このような精緻な検査をすれば、それだけ多くの小さな所見が見つかることは当初より想定されておりました。そこで、甲状腺や超音波検査などに関連する7つの学会*に検査方法を打診し、承認をいただき、検討委員会での協議を経て、実施に至りました。

また、一次検査の結果、B、C判定となった方の3~4割は、二次検査でA判定相当となり、結果的に多大な心理的ご負担をかけているのでは、とのご指摘もあります。そこで、二次検査会場では、心のケアの専門スタッフが常駐し、ご不安やご質問にお応えしたり、甲状腺検査とその結果についてご説明するようにしています。

今後も、精緻な検査によるメリットとデメリットを把握し、少しでもデメリットを減らしていく努力を重ねて参ります。

※：日本甲状腺学会、日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会、日本超音波医学会、日本超音波検査学会、日本小児内分泌学会、日本乳腺甲状腺超音波医学会

出典：福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センターウェブサイトより作成

出典の公開日：2015年3月31日

本資料への収録日：2015年3月31日